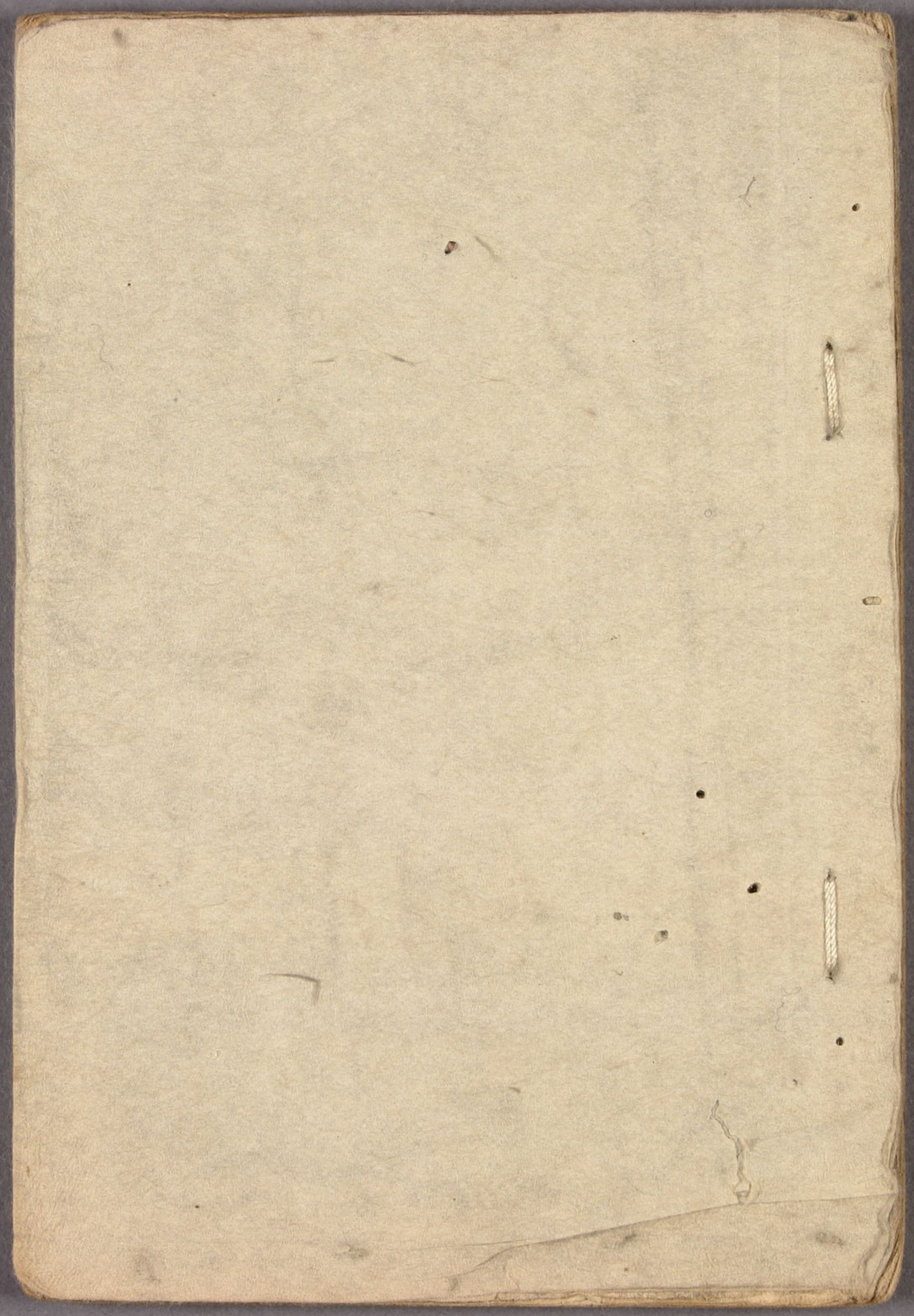


長殺

文政十二年

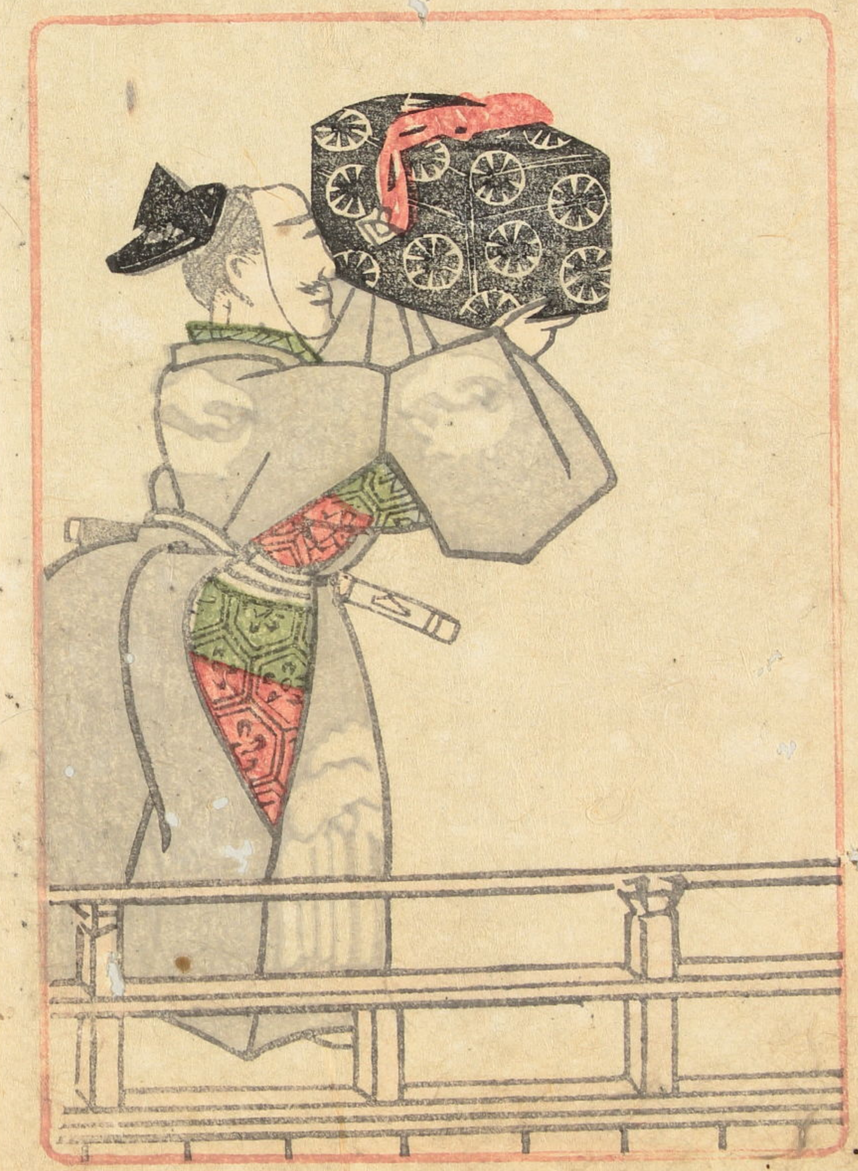
父うはの書さし一冊
の句をとゝ二冊乃冊
子はあらはの日我が名を
あらはしひゝ新ふて年
をゝうかゝうもの

をゝうゝ花はうはゝ
春枕と浮世那んすを京
はうあゝ書ほゝはう

少年　名を面

丑春

廣成寫



[illegible]ゑの枝かたへ[illegible]　桃園
[illegible]の桃さかり　可芳
[illegible]やゝ桃の花　四山
[illegible]ゝ[illegible]　於繕
いも[illegible]桃の日和哉　度屋
桃園や柳をもれ人ゝ逢　松枝
[illegible]の色ゝ[illegible]小魚ゝ　さゝ江
往葉ゝも山のゝゝて桃乃色　照月
[illegible]柳や風ゝ[illegible]のなゝ[illegible]ゝ　文
[illegible]ゝ毎日[illegible]ゝ桃ゝ[illegible]　於柳

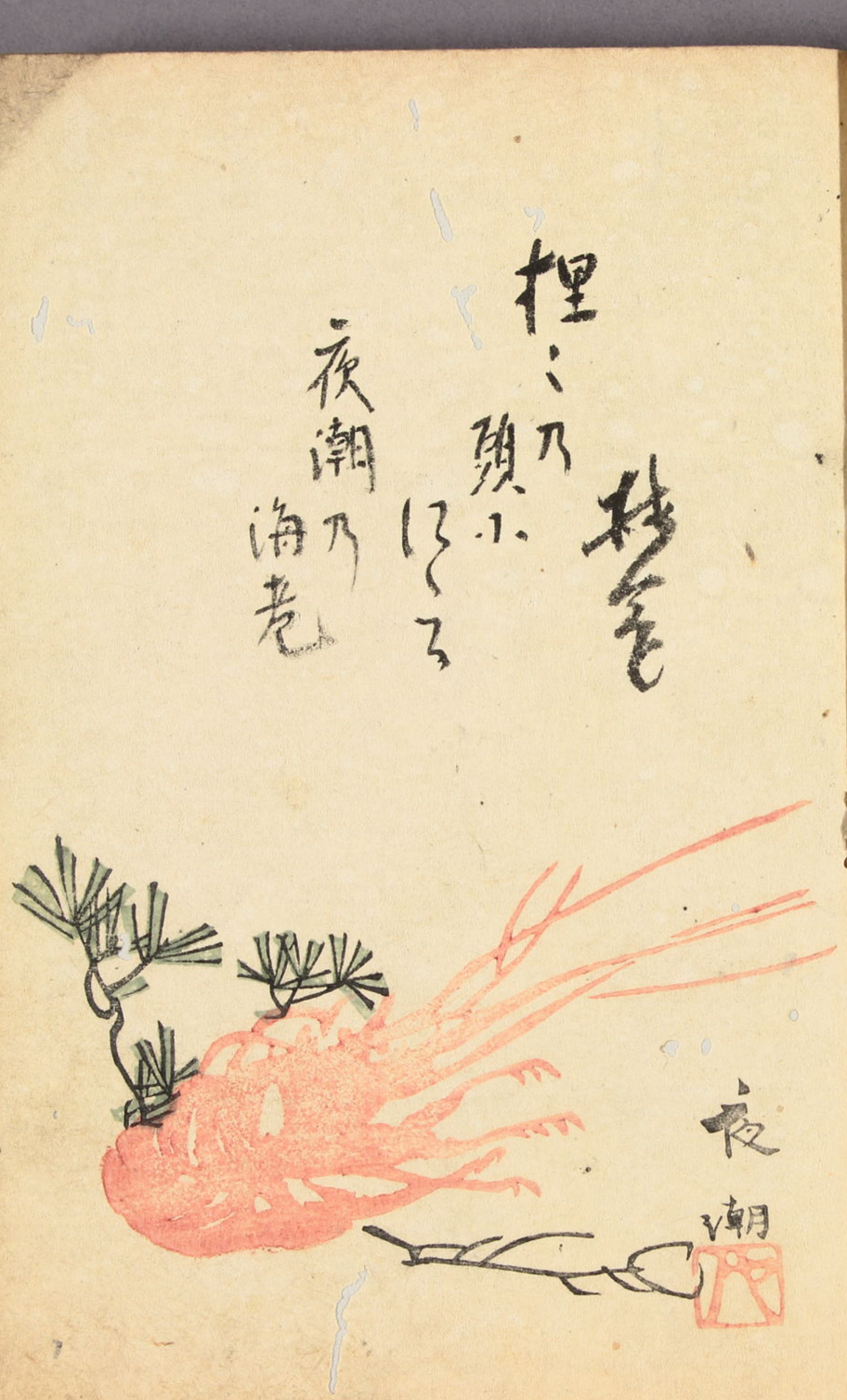
[illegible]ゝ[illegible]の四[illegible]一[illegible]ゝ[illegible]　自生
桃山の[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]　哥石
江向[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]　其七
二里あゝの旭ゝ[illegible]やいゝ柳　血遊
同利ゝ[illegible]の赤ゝ桃乃[illegible]　馬骨
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]の[illegible]　里村
[illegible]の雨や[illegible]桃の[illegible]　愛
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]　[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ桃のゝ[illegible]　佳山
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]の桃[illegible]　東六
桃[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]　九言

かゝ井戸の底うゝゆるゝを梶の志　寄藤
高もてはゝ人うすめゝ言ふれ葛　子遊
今を伸ゝ枝のうゝくさてゝゝや　ふれ草海
延板を設んてまはや桃乃実　一英
世うゝ人う横ゝいふや梶の枝　たゝ白
ぬゝゝはうゝかゝ川とゝあう折れ梶　佳山
ちのうゝれあうん生う桃日糸　佳生
日うまけゝ色てゝまゝの品　、
往復う新んゝおゝや川柳　う文
はゝ山ゝまあゝゝみゝう桃乃実　東や

乃ゝ戸や府ゝけゝゝ梅世うん　杜甫
世うん人うゝうゝゝまゝうゝや梅の品　一川
風ゝ実う新ゝうゝ東ゝ山ゝ様　佳山
うゝ川ゝゝ東ゝ山ゝ様　八扇
梅咲ゝやゝ川ゝゝ梅うゝ大ゝ　海舟
桃咲て四隣ゝ家乃数うゝ　彩多
出ゝうゝぬゝうゝゝみゝや岸の梅　古邦
ぬゝゝ酒ゝう本城ゝう梅ゝ実　陸放
湯ゝゝゝゝゝ里のゝうゝもれゝ　二酒
梅ゝう数のゝゝ梅乃ゝ付ゝうゝゝ　里雀

梅の花筆うるはしく書たり　里曉
山のこなた谷々陰々たる　九子
梅や桃のこゆる桃の幕　言彩
里ふりや梅さつくれた　嘯雲　素文
梅ゆや家ゑまれ侍る人々　扇風
陰々たる菜畑のもゆる　自生
桃の赤く紅折をうる家　友鈴
手数々は芽ふくうて山のくも　仙角
遠々や山もみな桃月ゆよりし　五洋
竹垣や梅移りくれ枝らしし　李奥

乳まきのせよ折せ芽ふくれ軒の梅　六馬
梅ゆや皆ゆけりくもみ乳たる　九の尾
白樣ゑまはて小きほ男り第雨　雨曉
桃ゑ舞ふ舞や面舞のおく京　木多
冶まゆや世人ゆ芽ふくふ京の藝　佐永
梅の戸や碁石ゑ世て言いゑ本　其山
地移りゑ折りゑ梅の遠ゑた　可水
まゆ梅や床ゑ言くゑ孔舞ゑ尾ゑ　抱猶
人伴ゑ梅ゑ月ゑ月ゑ月ゑ月ゑ　一志
白ゑまゑ栗栖の言ゑ所ゑ　因子



儀三
東詞
至角
言舟
我癸
宋化
一龍
東七
福風
青枝

松嶋や丹後浜辺の雪ぢ哉　言語
胡蝶の伸ー留やもしはなせ　徳多
川原九く年ふるといやは柳哉　徳石
雪花人のみんな笑ふあく桜哉　十九
花咲て孫の為ふる小ふろ　季周
ふるさとは雪も赤し梅の芯　楳塘
ふる郷を雪ぬけて花乃哉　子遊
手の届く桜さこくや通りすぎ　鼠軽
見ふる柳枝ふやらいて春　白雄
松風乃和ふ也ぬる春　巴好

雪解ふ枝もくくふ市女笠　谷蹊
立ぬ雪ふる人ふ桜の芯ひろの嵐孔
すけ〳〵雪ふの春雑やもれ哉　古山
笑ふ雪は桜もまゆ山桜ふ　亀徇
花り人ふふふやゆふやふ　如月
陸奥中の雪も白いふ立春　玉兎
ふふふふ松ふ柳ふ　谷雪
桜さくや四ふ雪つめふ人ふ春ふ　烏丸
ちらいふふ月桂ふふの梅ふ女　小蕉
楳分ーふふや　松ふ梅ふ桜ふ　亀角

[illegible]中歌仕う　梅彦
山かつの[illegible]　和交
梅の中月代剃[illegible]　[illegible]
[illegible]中[illegible]　宰相
[illegible]　吐水
[illegible]門柳　[illegible]
[illegible]中[illegible]　双梅
[illegible]　金菊
二[illegible]　ノ寿
[illegible]の[illegible]　梅[illegible]

[illegible]柳[illegible]　[illegible]文
[illegible]の[illegible]中梅の[illegible]　[illegible]好
[illegible]枕[illegible]　玉納
[illegible]柳[illegible]　[illegible]
[illegible]梅[illegible]　八十八
[illegible]　[illegible]遊
[illegible]　右之
[illegible]梅の[illegible]　芝[illegible]
[illegible]人[illegible]　[illegible]山
[illegible]柳[illegible]　秋[illegible]

市子の山桜の木の下に　　我年
いそぐ人の思ひ出は　　岩橋
かりの人をまつ風の花に　　佳彼
葉をのこす梅の実　　恋志
雨の中井目の笠や　　山川
き桜と加茂にて山の雨　　友吉
ながめる雨をまつる志　　佳夕
遠桜ながめはやさを定家　　竹子
田の孫や桜の人なし　　久寿
傘と有ながら夜の雨　　一雨

松の実や紅葉ちる　　小春
小雨はけて雲は低く雲のあ　　美芳
家ながらと白雲の宮ぬ梅　　雲山
山本の月桜をながめる　　多恵
幕の内は指の仕ぐさを桃の実ながら　　里角
梅桜又をんなの手ゆる作高武　　佳永
安廉の結ぶたをと松れ葉　　園生
き桜や留の玉ぬ生ぬ竹　　二竹
き御や雲はさあは野雲ぬ　　風山
傘りつくるを思ひ出る桜ぬ　　竹子

[illegible]の日和うらうらやかなる柳　凶多
[illegible]人共[illegible]れ[illegible]梅の咲るゝ　隈文
梅咲や[illegible]の[illegible]さゝ[illegible]ハる　松柳
柳ゝ人[illegible]流をこゆるゝ　鬼貫
菜蕾を洗の柳とゝ[illegible]　左狐
糸柳[illegible]ちゝ[illegible]　東明
京九[illegible]のうゝ[illegible]枕乃[illegible]　老山
[illegible]柳やゝ[illegible]　斉柳
[illegible]乃[illegible]柳もして[illegible]桃　か一
[illegible]の[illegible]柳ゝ　之[illegible]

[illegible]梅を[illegible]　竹雨
梅咲ゝ[illegible]　山壌
[illegible]咲や祖父ゝ先ゝ畑仕ゝ　遊[illegible]
[illegible]乃柳大[illegible]　亀[illegible]
わゝ[illegible]をいゝ[illegible]もつゝく柳ゝ　五洋
[illegible]紀風の[illegible]の[illegible]　五李
[illegible]柳も[illegible]を町[illegible]　百九
[illegible]ゝを[illegible]ゝ柳ゝ　柳志
生垣のけゝらゝ[illegible]乃[illegible]　[illegible]
灰柳ゝ色を柳のみゝ[illegible]　里柳

春亭

金子門人丹かしら花うるまち　馬角
まつの雪陸奥やはれ角　之幻
梅月は三ぬるの月　得之
手枕やかるまつ梅よりやすくおくれ　虹彦
梅ゝゝ氣いせめて二人つれいそ　子静
ゝゝ雪もまつ好まるり枕の花ゝ　志示
ゝゝゝゝゝ雪ゝ咲ゝゝゝ　麓渓
風根菖の風ゝ梅ゝ柳ゝ　礎
下枝乃見ゝうけゝやゝ試　芦甲
里の名ゝいゝ梅乃花　岫九

眉をしかむる人あらん梅の花　笑德
大さらへ出しまふてや松乃華　如風
青梅のむかしすゞや乃非けさかな　東之
黄なる梅まれなる小家かな　綿亭
笠千代は花か舞子に松乃紋かな　其七
寄るやいと顔ならゆる梅の香かな　迎蝶
梅かゝる男ハ一人かし　梶の花　雨村
桃山の一膳ならし名所やら　栗　芦錦
白きもの言ふし咲や春暮て山　芦角
扶咲や梅の色みも筆とる里き　唐木

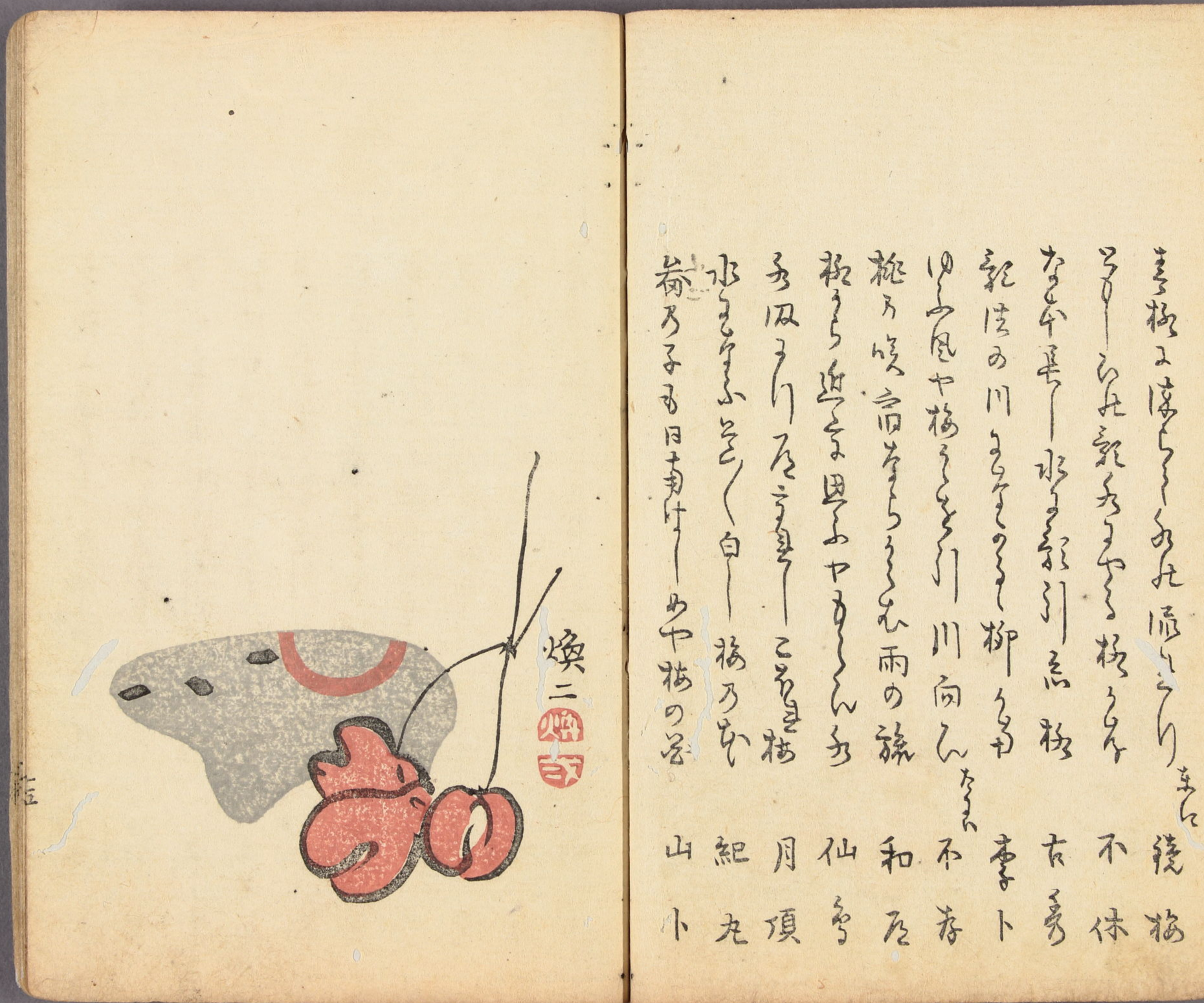
出替の梅をみやる目出度かな　其丈
蔵つかわらん春てらう挿の梅かな　東一
梅は咲大名やもの誠哉　山月
出おりやくさ梅のかたしかな　大芸
肖像に杖付てすみや梶の花かな　机力
紅白さし田にをきての梢かな　射石
桃山の梶わまし夕日影なり　や引
青梅を割りてめぐり豆腐串せ　其国
豆腐ならもあみ付く梅かな　芦舟
酢ならぬの米め人とまかせん梅か詠　斎眠

門遠しすまの梅の白へうう　双賀
一ぱいうみうみうみ雪の梅　一平
咲ふたかみみやれやれのめ　吐石
毋ふふふふふりて梅は花　函象
ふふふれは紅やまもの色　芦洲
梅咲たいうな目ふふ情ま　杜象
うかう梅ふふ梅の芽の武ふふ　秀士
翠竹のこれまはふふふ梅ふふ　菓子女
梅の咲口ふふふふふ　芋洲
生賀ふふ梅の匂ふふ　晴風

梅ふふふふふ梅ふふふふ、　越山
乗ふの里ふふふふ梅の色　射石
口ふふふ梅ふふふふ梅の色　二扇
義ふふ梅ふふ梅の色　慶男
美緑ふ人の笑ふふ梅花　徳糸
立ふふ世ふふ梅の色ふふ　蜀花
若ふふふ鼻ふふ梅の色　亀鈴
乗ふふふふふふ梅武乗　風雄
因ふ一むふふふを梅ふふ梅乳　田鈴
梅咲ふふ色ふふ梅ふふふ　菓酵

珊瑚珠にまさる艶あり梅の花さく　淵能
ふる里も物ごし春きて梅を懸香　たゝえ 附才
若矢射るあてらもすゝらはし梅　采丸
買ふて来てみるも香ほく梅の中　取盃
石工の手ふる目もてらすゝめも花咲　佳友
日ゝは梅のちらるゝ日を待かねて　用和
切雲を口ふりて法をさく梅の香　麦舟
梅の門人に集る茶に明くれ居　雅口
遊ばする花も咲るゝ唐の梅　午吹
至らぬの口をけさ梅乃法ありし　篤恒

梅からり目うつりあるもの田うゑとも　白川 亀角
白壁に茶や付られ力におもしろい　岱雪
小家ふるも宮にかゝしき家の跡　その 四方
梅咲て宵寝はさぬ戸口かな　嵐芝丈 不休
行き向に手ふるや梅さゝる伏見舟　山卜
本のめくや長舟旅うりの梅乃花　如雪
百姓も茶家はしめる梅かな　西に 鷲沼
うらちらせぬ梅にさそふやけしの跡　周平
宇なる茶すゝめや梅の皆弁貸　西に 杉子
春の眠り深る大かたし梅の花　南一



後梅
不休
古多
春ト
不存
和尼
仙多
月項
紀丸
山卜
煥二

新古今和歌集巻第一　春歌

里人の袖ふるまでに佳景　空の月
我年の春をいくつか梅に経ん　士師
古郷の乳母の乳入や梅の花　醍醐
這ふかとかしこ言ふ松の花　巫山
遠くから思ひ分け梅の花　月頂
春は花の香を惜む　女房
侍らう雪をかぶる庭の梅　藤原
青やぎを伝へ知る底や垣の根　百恵
白雪を言ふ人ぞ梅の花　糸弦

梅の花の咲かぬ時なし　山下
白雪を言ふ人ぞ梅の花　古山
白桃の軒の芳花の香　新勅
出て入る人の袖ふる山の柳　山崎
梅の一枝も花のなかば　山下
乳母の分の花の香　梅支
見ぬ人は知れぬ二月の空　定仏
雪のてをかけ出て梅の花　文保
ふるさとの春の芽を梅の花　庭鳥
以ふる風の柳の枝　新友

ひらゝともえては見えす霞や枕の窓　みやこ　淸笺
桃山やさくらの人に侍ふあはれの人ゝ　卅栗
茎咲乃白気る名残りや宇治の茶杓　東武　志邑
うしろからみゆるゝは岸の梅かれ　ゝ哲
筏くむ手もとくまゝり柳哉　并桂
秋はさひしいまいかのまゝの梅　永示
梅見えし舟の出船を覚えけり　せゝ　方文
雨上る風をまちける梅の花　東武　里鏡
瀬やをとまへつゝもやぶれ梅　里濤
白梅のちらちら風の流れし丈　たなか　鄹六

寒梅九乃ゆ悠なるまゝ純なれ　東武　雲流
川の字の大方はなれしこの梅哉　下くせ　柳石
背戸口は暗き木の下枕乃窓　呂枝
手の筋をかけまゝ切りたる梅のむち　梅刀
余所ふくゝ翁之字の九日南をさす　東武　澂山
雪うちゝ笠の入りし声乃窓　六ゝ
みか月をのせてもさひく梅かれ　貞巳
三日月やつゝらの梅のむか　山しろ　素舟
梅かえ月そのゝて里深し　照其
おもむく色よ白からもて窓　なかま　画眉

[illegible]まけて梅の花　東尾
新しく[illegible]梅試　士山
梅咲やうぐいす迫る田舎屋　風子
山ぶきの[illegible]まれは白みや梅の花　小五
うぐいすを[illegible]て梅咲りたる　枝常
陸奥の梅や[illegible]ちらぬ梅の咲る　芝山
梅ゝや梅の花もなたれ戸ひらミ　拓遊
見ぬうりや梅ゝ雨ゆふ〳〵ぬ　士路
まき梅や長ゝ文をたゝめ[illegible]ぬ　きせい
素[illegible]ゝ[illegible]はゝ梅の花　小血

空向ゝ[illegible]枝まゝ梅乃花　巴文
[illegible]風の梅ゝ庭を掃　猫金
[illegible]ゝ梅乃[illegible]　方右
[illegible]梅乃[illegible]　里陽
[illegible]の[illegible]梅乃言　大雪
梅ゝ[illegible]　京竹
[illegible]画もゝ[illegible]梅の花　美徒

清水の[illegible]　猟夫　賞雨
去ゝゝ梅ゝを[illegible]山　丶

一生世乃
初ゑみ
寿ら
小杉川
梅堂

廣有

うぐいすの氣梅よりくらくまけよりくらみる
梅ろ玄雨もそ〳〵と思ひ久堂　井眉
梅みるい思ひ花もかくれ子鞋家　写満
いさ梅さらむ江ら井川のはと　愛信
日の近くなるもしのさうの武　東舎
梅咲や我もそ昌家乃あ〳〵ろ　南月
夢寄や梅くよ酔よりの影　新杖
木のもとをおしはそ好く梅多　公路

火とそ雨如わらん家や梅の枝ん〳〵　素籍

[illegible] 梅乃[illegible]
[illegible]
白い乃い目乃[illegible] 桃丸
[illegible] 桃乃[illegible] 冊、 [illegible]
小[illegible]
雪乃[illegible] 梅乃[illegible] すみを
[illegible] 梅乃[illegible] 小風[illegible] 木[illegible]
白梅や[illegible] 善石
梅[illegible]
桃[illegible]

[illegible]月[illegible]

[illegible]梅の[illegible] 赤山九 [illegible]
[illegible] 稲[illegible]
[illegible] 之
[illegible]
[illegible] 杜甫
[illegible] 桃乃[illegible]
人の[illegible] 梅 [illegible]

[illegible]梅の[illegible] 素白
小梅[illegible]
山[illegible]

出羽は出羽の柳の白糸
垂れて春を待ちかねる
人の新やの柳もまだ芽ぐまぬ枝の
言ふて吹く風に靡くと枝の
春柳や志賀の浜辺に靡くと
春柳よもたれ立ちにくい
立ちぬ枝の舟遊びまれて枝の
二月の柳は芽ぐみ柳の
詩の夏を動かすものを枝の
清水流れる新の柳や枝は

盃交
丶
貞四
雨時
子柳
一山
秋柳
新月
竹窗
丶

紐先の水に枝さす昇柳
月まち目の蕪の花柳
盃の水に映る柳
松の花や交詩
四月の小口の柳
さやかに居る新柳
暮方や海つばめ
柳月夜竹を
一日もいやなる柳

枝子
文芝
東木
春好
蜀川
志形
陸放
言始
虎示
春丸

[illegible]係や梅さく書きたる屏風
白梅さく通りみちはせ
梅みちを歩行すれと雨ふる
見はてぬ氣もいとゝ月と梅
泥塗のふみ如くなる梅ヶ枝
梅さく弟子多き
梅見も行まゝ梅みかくる
梅の色世ゝを掛く
ゆふ月ゝかたらふる梅
雪とみるまゝ梅の色

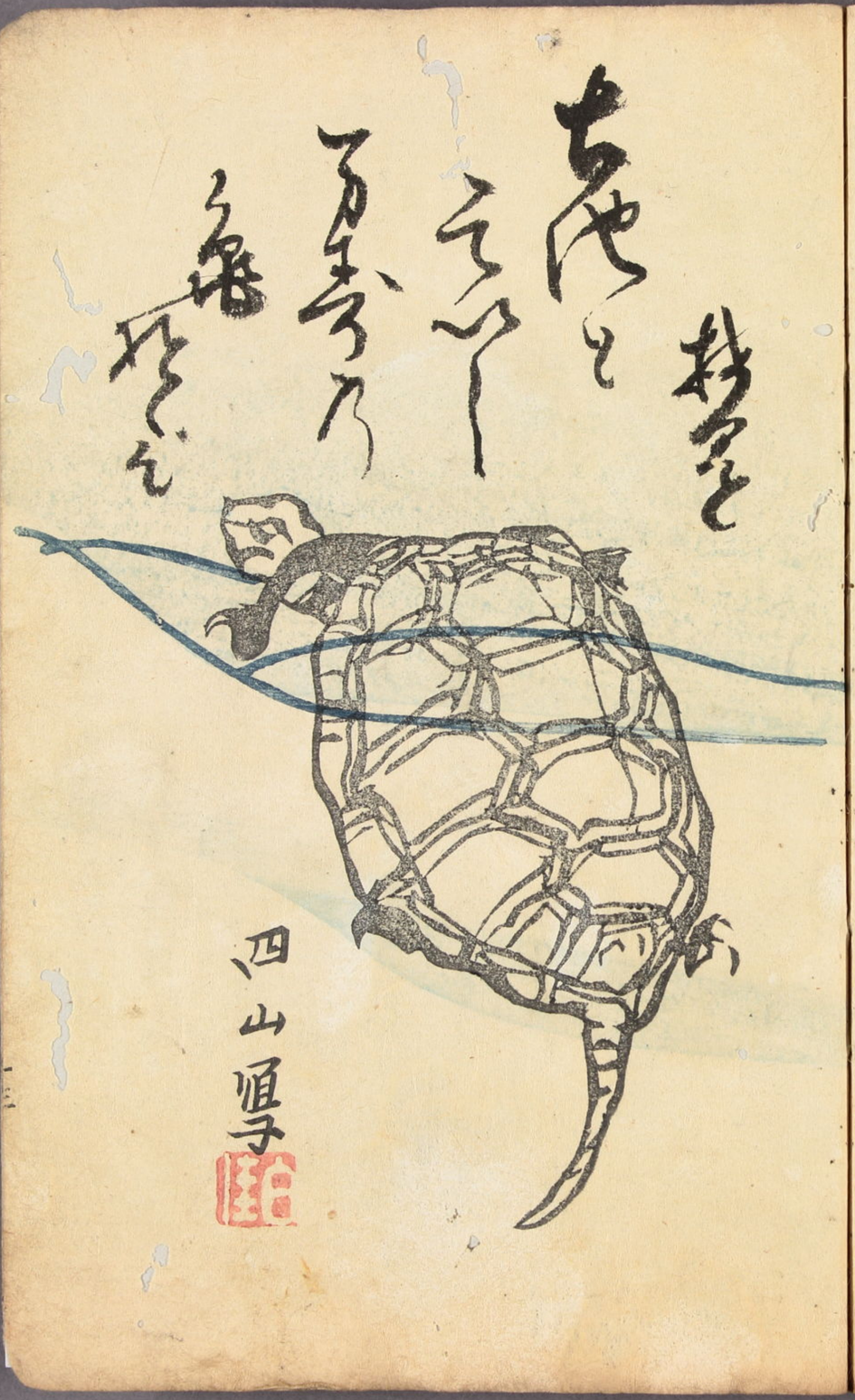
登場
七盃
如芥
土口
朱屋
梅ヶ
鹿石
多能
松石
移風

さられるも皆戸ならひ梅の
梅ゝ二ゝ梅ゝ梅ゝ梅部
まゝ咲のゝゝ梅ゝ梅ゝ
中ゝ梅ゝ梅ゝ月と梅
見梅ゝ紅ゝ白ゝ丹ゝ

重姫
一英
竹子
参考
俳諧

枝梅丹を伝し紅や梅乃ゝ
梅咲や里を埃をゆゝたる
野梅ゝ戸ゝ梅ゝ
世の中丹梅ゝ月と梅

雨一
二条
只来
蒼乱



山二

馬逸

古岩

陶一

平陽

可祥

唐

山

おのがさら枕をみるやうきぶし　原石谷
さかりうきすがたもさて梅の色　遠石谷
雪とよ雪ぶりはや抱れ人　梅徑
さかりふ五十をんの文の葉　素文
梅うれ雨ふ花さしいとをきうら　鼎六
老木なれどうぐひす宿の言あ　与文
ふやうう梅れ行ーーーや五十年　足来
まうをうゆうを抱をまる和　竺埒

於遠

我きをかうとを人れえうを
生んれ雨ふれ我宿の去
麻ふふ木の芽移れ新もたし
ち婚はうかつしと　俳
ふ枕ふ雨の月をやうふし　羅侍
いふうすうちれきふれ酔　四山
立松の葉いうしも移る雨　因平
をれ先万砂をうちつ　一茶
蟬宿のこすきをれ通り雨　佳年
ふ髮といふ母を乳をう　射石
　　竹窗

月頂
素白
佳山
一英
園生
言雅
卓四
可帖
田静
二雄

小田原を発町入れ不多
以不拙きを石を切る
根回る男を供よ変りて
立ちを袖をものまま横雲
拭ふる有れ字入れ筆
峰寄きた度雲の度さな
玉造の百も二百も風よりて
箱を人よみきらふ
初秋れ初月をまき
作らし笛も雲の多れ

反雲
筆頂
ノ寿
堅石
雲
大英
雅風
岩橋
敬石
古山

雅房まて、生れ侍るの時よ　源丈
窗の日和乃らうけ乃葉ら紅　之飛
行とのゝ皆うしてゝ見るまゝ　古岩
待乃秋乃ゝ紙乃人と持つゝ　卯象
ひいつもの地ゝ家のたゝ　源砂
結ひ仕ゝられ乳ふやれ　五玄

世間をあらゝ我ら我れを葉ゝ乃下ら
人をゝう乃世乃中も苗ら中　卓四

走きあて苗も苗ゝ百里と　遷甫
打ゝ指おとすゝ乃れや葉れ苗　五玄
和さゝ〳〵きゝうん仕ゝうと
三ちゝきれ乃やいゝちの稚ら年　羅侊
いけゝとも見新さゝを宿の梅　月窗
遠葉や雨走んも稚乃もつゝす　玄面
乃ゝ〳〵きゝうんゝうゝ乃ゝゆ
梅葉ゝうゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ　右左　源左

四山